

2013年9月4日

学校法人 東洋大学
一般財団法人 日本気象協会
足立区
株式会社 アイシフト

デジタルサイネージでXRAIN防災啓発情報の情報提供を開始 ～北千住・柏・大宮・池袋・博多の大型ビジョンに情報を提供～

学校法人 東洋大学は、街頭のデジタルサイネージで降雨の様子、防災啓発情報をお知らせする取り組みを、9月1日から開始しました。

本取り組みは、日本気象協会、足立区、アイシフトなどの協力の下、最新の気象レーダーXRAIN（※注1）で観測された降雨の様子や防災啓発情報を、インターネットを介して街頭のデジタルサイネージに配信・放映するものです。これは、文部科学省の社会システム改革と研究開発の一体的推進「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」、課題3「極端気象に強い都市創り社会実験」（代表代理：東洋大学社会学部関谷直也准教授）として行うものです。

このデジタルサイネージでのXRAIN情報提供は、文部科学省の社会システム改革と研究開発の一体的推進「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」（代表研究機関：独立行政法人防災科学技術研究所）プロジェクトの枠組みとして行っているものです。このプロジェクトは、近年、日本でも集中豪雨や竜巻など、いわゆる極端な気象（※注2）に伴う災害が増加する傾向にあり、特に都市部への影響が懸念されることから、2010年より5年計画で始まったものです。極端な気象のメカニズムを解明し、実用的な監視・予測手法を開発し、現象を早期にエンドユーザまで伝達するシステムを構築することにより、継続的な情報利用につなげることを目指しています。

なお、東日本大震災において、デジタルサイネージは3月11日は約半数のサイネージにおいて帰宅困難者向けの情報提供手段として活用され、12日以降、約半数のサイネージが災害に関連する情報を提供することに活用されています。また、平成23年11月に定められた「東京都防災対応指針」では、「鉄道事業者や業界団体などに対して、駅における情報提供体制の整備や予備電源の確保等の対策を要請し、情報提供機能の確保を促していく。また、大型ビジョンやデジタルサイネージを活用し、音声や文字による情報提供を実施するなど、災害時要援護者が情報を得やすい環境整備に向けた取組も行っていく。」と定められ、今後、デジタルサイネージの活用は非常時の新たな情報提供手段として重視されています（関谷直也、2012「災害とデジタルサイネージ」『日経広告研究所報265号』<http://disaster-info.jp/ronbun/2012nikkei3.pdf>）。

なお、本取り組みは社会実験であり、2014年3月末まで実施する予定です。

■概要

【情報提供場所】

あだちシティビジョン（北千住）
エキサイトビジョン柏（柏駅前）
エキサイトビジョン大宮アルシェ（大宮駅前）
池袋リプレビジョン（池袋サンシャイン通り）
博多ふれあいビジョン（博多駅前）

【放送時間】

30秒間（1時間に2回、1回の場合あり）

【放送内容】

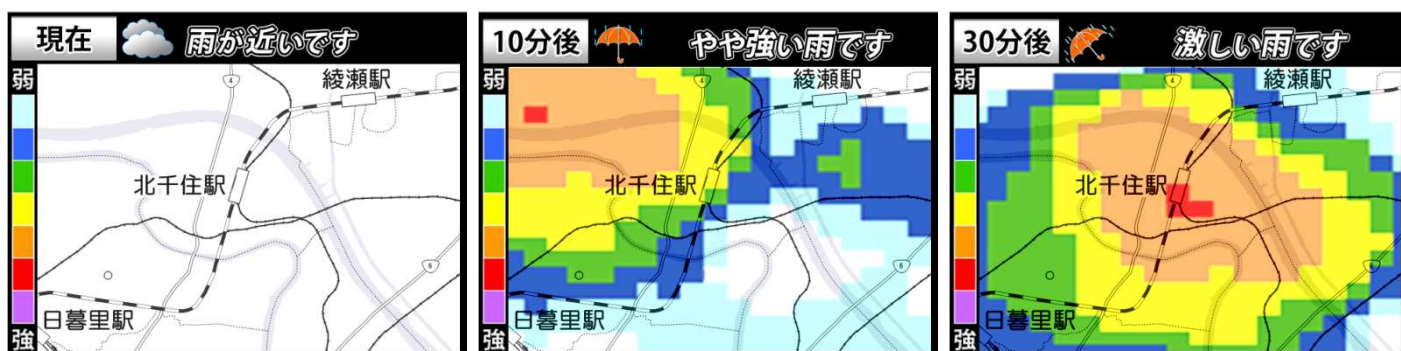
- ・放送箇所の周辺で降雨が観測、または予測される場合は、雨の情報をお伝えします。
- ・放送箇所の周辺で降雨が観測、または予測されていない場合は、防災に関する啓発情報をお伝えします。

※注1：XRAINとは

国土交通省が整備を進めているXバンドMPレーダネットワークのことです。XバンドMPレーダは、既存のレーダに比べて、高分解能・高頻度・高観測精度で観測可能な最新型のレーダです。水平偏波と垂直偏波の2種類の電波を同時に送信・受信することで雨及び風の観測を3次元で行っており、早期に局地的豪雨を検知することが期待されています。

※注2：極端な気象とは

局地的大雨や強風などの、特定地域において、統計的な分布範囲からみても稀な現象のことです。



XバンドMPレーダとは

ゲリラ豪雨や集中豪雨対策として、降雨の状況をより細かく、リアルタイムで把握するため、「XバンドMPレーダ」による観測が始まっています。

降水時に、このサイネージでは1時間に数回、観測結果を伝える実験を行っています。



災害を減らすため、極端な気象現象の情報を皆様へ伝える実験を行っています。
→ご意見・ご要望は、「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」プロジェクト 東洋大学社会学部・関谷研究室(03-3945-7454)まで。

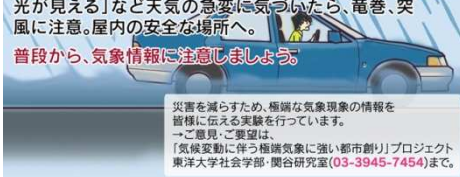
激しい雨の時の注意

できるだけ自動車で避難をしない。冠水した道路はエンストする危険があります。

河川敷、周囲より低い土地、地下街にいる時は、河川の増水に特に注意しましょう。

「急に黒い雲が近づいてきた」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見える」など天気の変化に気づいたら、竜巻、突風に注意。屋内の安全な場所へ。

普段から、気象情報に注意しましょう。



災害を減らすため、極端な気象現象の情報を皆様へ伝える実験を行っています。
→ご意見・ご要望は、「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」プロジェクト 東洋大学社会学部・関谷研究室(03-3945-7454)まで。

洪水の危険があるときは……

国土交通省や自治体の河川情報をこまめに確認する。

近くの高いビルに避難する。

河川の近くに住んでいる人は特に注意する。

普段から、自治体の洪水ハザードマップを確認しておきましょう。



災害を減らすため、極端な気象現象の情報を皆様へ伝える実験を行っています。
→ご意見・ご要望は、「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」プロジェクト 東洋大学社会学部・関谷研究室(03-3945-7454)まで。